

御崎谷遺跡

御崎谷遺跡は出雲平野南端の低丘陵に囲まれた谷部に位置する遺跡です。調査の結果、掘立柱建物跡2棟、加工段4、中近世墓(SX01)1基、ピット群、土坑状遺構、不明遺構(SX02)1と弥生時代終わり頃から奈良時代の大量の土器が見つかりました。

1. 遺構・遺物の概要

掘立柱建物跡は調査区南側中央付近で2棟見つかりました。そのうちの1棟(SB01)は2間×3間の総柱建物跡で倉庫跡と考えられます。遺物は柱穴内から弥生時代終わりから古墳時代終わり頃のものが入混在して出土していたため、明確な時期については把握できませんでした。

加工段は低丘陵の北側及び東側斜面で見つかりましたが、そのほとんどが削られていたため、形や時期などは不明です。

SX01は低丘陵南東斜面で見つかった中近世の墓の可能性が考えられるものです。形は一辺1.2mの正方形で、深さは約10cmしか残っていませんでしたが、側面には板をとめていたと考えられる釘が打ち込まれていました。

SX02は調査区西側で見つかった用途不明な遺構です。北側は深い落ち込みになっており、土器とともに多量の杭や流木等が見つかりました。これらの杭は意図的に打ち込まれたもののようですが、何のために使われたのか分かりませんでした。

遺物は弥生時代終わり頃から奈良時代にかけての土器が大量に出土しています。特に調査区の西側ではその場で潰れたような状態のものが集中して見つかりました。

この他に砥石、土錘、紡錘車なども出土しています。

2. まとめ

御崎谷遺跡では大量の土器が出土していますが、それに比べて建物跡などはあまり見つかりませんでした。調査区西側では完形に近く復元できる土器も多いことから、調査区南端の低丘陵上に多くの建物跡が存在していたものと考えられます。今回、集落跡を見つけることはできませんでしたが、この地域に弥生時代後期～古墳時代前期を中心とする大規模な集落が存在していたものと推測されます。



調査風景



SB01 完掘状況